

◎注意事項をよくお読み下さい



# りそな 経済フラッシュ

## (日銀金融政策決定会合)

2022/6/17

りそなホールディングス 市場企画部

### 〇概況

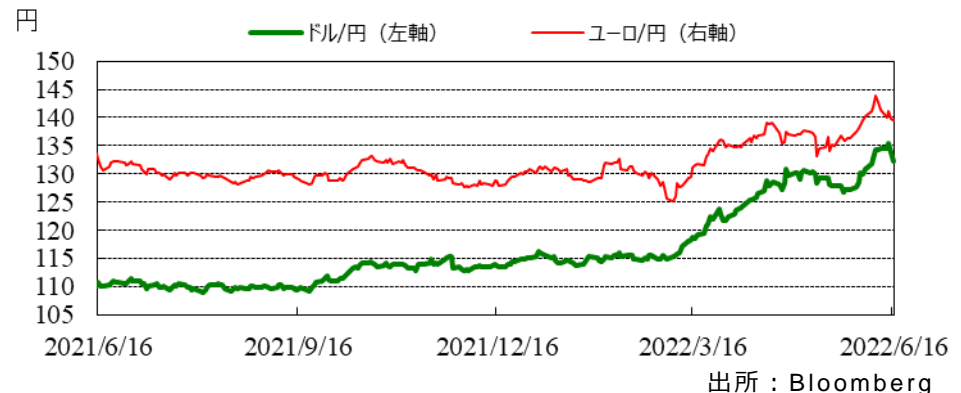
- ◆ 日銀は本日の決定会合で当面の金融政策を現状維持とした。
- ◆ 海外中銀の政策転換やそれに伴う円安進行、債券市場の乱高下を受けて、日銀も何らかの政策変更が行うとの思惑もあったが、声明文に為替市場注視との文言が加わったにとどまった。
- ◆ 日銀と海外中銀との金融政策格差は引き続き意識されやすく、金利を背景とした円安圧力は続きやすい。

- ✓ 日銀は6月16-17日の金融政策決定会合で、金融政策を現状維持とした。フォワードガイダンスについても、「現在の長短金利の水準、または、それを下回る水準で推移することを想定している」との従来の表現が維持された。

主な政策		声明文
長短金利操作	短期金利	日本銀行当座預金のうち政策金利残高に▲0.1%のマイナス金利を適用する
	長期金利	10年物国債金利がゼロ%程度で推移するよう、上限を設けず必要な金額の長期国債の買入れを行う。
	連続指値オペの運用	上記の金融市場調節方針を実現するため、10年物国債金利について0.25%の利回りでの指値オペを、明らかに応札が見込まれない場合を除き、毎営業日、実施する。
資産買入	ETF J-REIT	ETFおよびJ-REITについて、当面は、それぞれ年間約12兆円、年間約1,800億円に相当する残高増加ペースを上限に、必要に応じて、買入れを行う
	CP 社債 ※	CP等、社債等については、感染拡大前と同程度のペースで買入れを行い、買入れ残高を感染症拡大前の水準(CP等:約2兆円、社債等:約3兆円)へと徐々に戻していく

- ✓ 景気の総合判断は、「新型コロナウイルス感染症や資源価格上昇の影響などから一部に弱めの動きもみられるが、基調としては持ち直している」との表現が維持された。輸出や鉱工業生産について、「足もとでは、供給制約の影響が強まっている」とした。消費者物価については「2%程度となっている」とする一方で、「エネルギーや食料品の価格上昇」を主因としている。
- ✓ リスク要因の項目で「わが国経済を巡る不確実性はきわめて高い」としたうえで、「**金融・為替市場の動向やその我が国経済・物価への影響を、十分注視する必要がある**」との文言が追加され、**為替相場の値動きへの一定の配慮は示されている**。
- ✓ 海外中銀の政策転換やそれに伴う円安進行、債券市場の乱高下を受けて、**日銀も何らかの政策変更が行うとの思惑もあったが、政策変更は行われず**。
- ✓ ドル円市場は結果発表前から円安進行しており、結果発表後に乱高下したが、執筆時点（13:00時点）ではドル円は134円台前半の水準。日銀と海外中銀との金融政策格差は意識されやすく、金利を背景とした円安圧力は当面は続きやすい。

### ●ドル円・ユーロ円の値動き



### ◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。